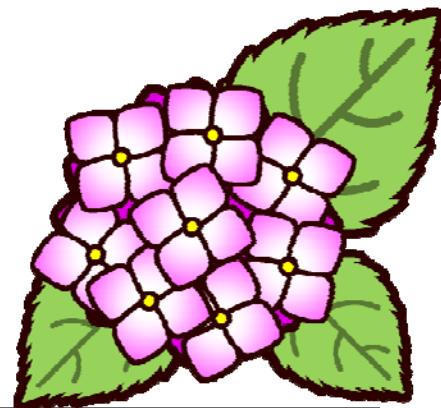


発行:NFRJ-08パネル実行委員会

ニュースレター



No.6

発行日 2012年6月

1 ごあいさつ

梅雨の季節に入り、本格的な暑さが近づいてまいりました。被災地の復興はなかなか進まず、節電等、全国各地にさまざまな影響が及んでおります。

幸い、本プロジェクトは現在は予定の計画通りに進めさせていただいております。これも、調査にご協力くださっている方々

をはじめ、本研究プロジェクトを支えてくださる皆様のお力添えの賜物と、深く感謝申し上げます。

本号では、前回調査でおたずねした内容のうち、震災関連の項目の結果を、速報として一部、ご紹介します。

2 ご回答への御礼とお願い

いつもフォローアップ調査にご協力いただき、ありがとうございます。今年の初めに4回目となる調査をさせていただきました。おかげさまで、1,518名の方々からご回答を寄せていただきました。重ねて御礼申し上げます。

これまで4回の調査は、第1回は調査員が調査票をお届けし、その後3回は郵送でお願いしてまいりました。次回は、第1回と同じ方法を考えております。詳細は次回のニュースでお知らせします。

このフォローアップ調査によって、今までの調査ではわからなかった家族の実態と

その変化をとらえることができるようになります。引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます。

アンケートの回答ならびに皆様のお名前やご住所などの情報は、調査会社が厳重に管理し他所にもれることはありませんので、ご安心ください。



3 調査結果のご紹介

震災の影響をどのように受け止めているのか

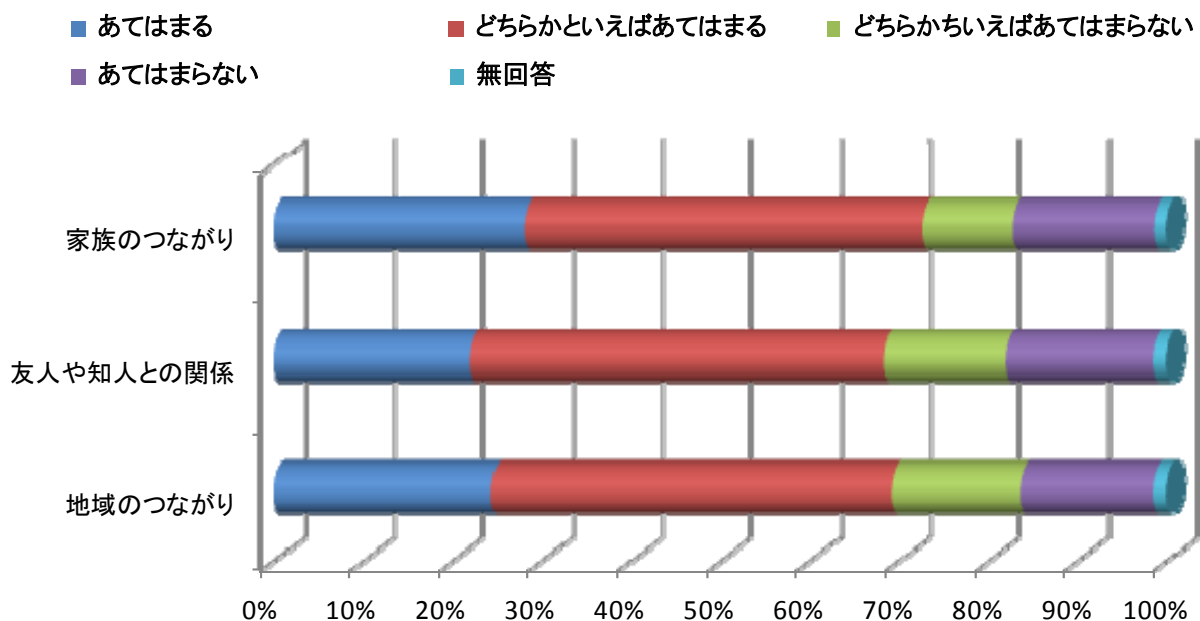
前回1月の調査では、東日本大震災（福島原子力発電所事故を含む）に関連した項目をお尋ねしました。

ご回答いただいた1,518名のうち、「家屋や財産などに大きな被害があった」という質問に「あてはまる」ないしは「どちらかといえばあてはまる」とお答えになった方は6%、「食事や住まいなど、家庭生活の変更を余儀なくされた」方は7%と、それぞれ100名弱の方が大きな被害を経験なさっていることがわかりました。「自分や家族の働き方（転職、労働時間の変更など）に影響があった」方は1割に及んでいました。また、「親族や友人など、身近な人が大きな被害にあった」方は17%いらっしゃいました。

本調査は、全国から人口に応じて均等になるようにランダムに抽出された方々が対象ですが、上記のように具体的な被害を経験なさっている方が相当数にのぼることからも、被害の甚大さがあらためて思い知らされます。あらためまして心よりお見舞い申し上げます。

震災等の経験を通じて、家族や周囲の人々とのつながり、「絆」の大切さがあらためて認識されるようになったと言われています。今回の調査で「家族や親族のつながり」「個人的な友人や知人との関係」「地域のつながり」を「以前よりも大切に感じるようになった」かおたずねしたところ、いずれの項目においても2～3割の人が「あてはまる」、45%前後の人が「どちらかといえばあてはまる」とあわせて7割前後の人が肯定する回答をしていました。

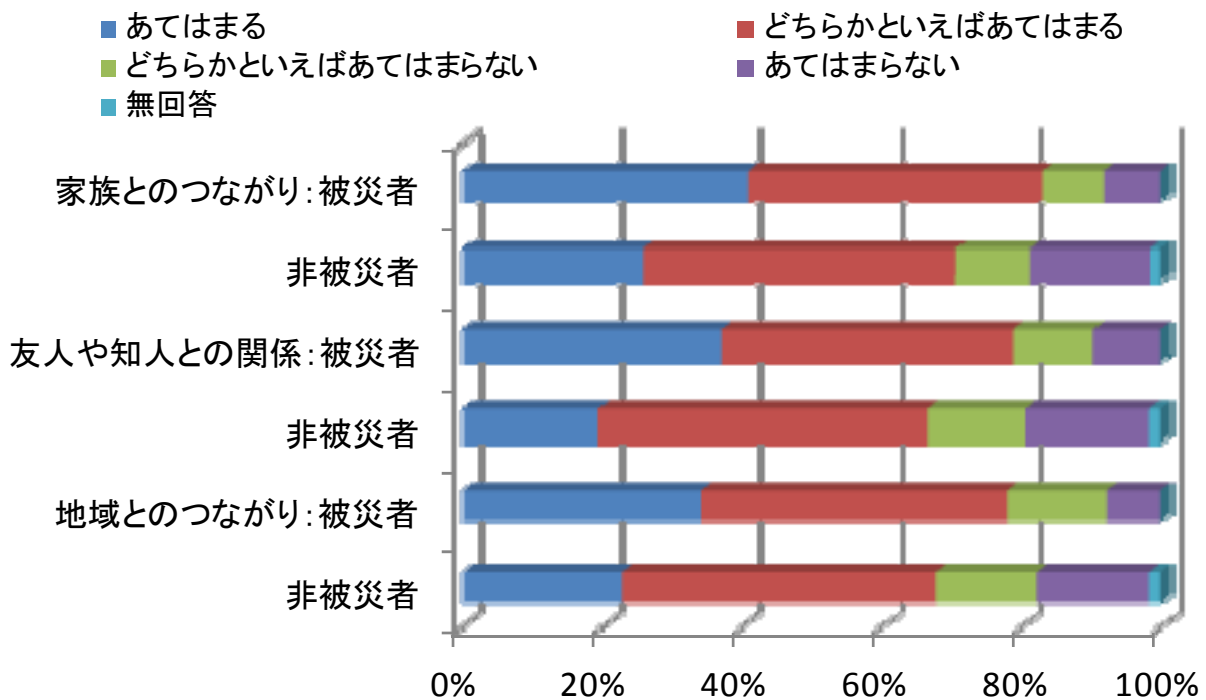
図1 東日本大震災に関連して、以下のつながりや関係を以前よりも「大切に感じるようになった」



「絆」の大切さを感じるようになった震災の影響は、広く共有されている

「家屋や財産」「家庭生活」「働き方」のいずれかにでも影響があったと言える方を直接的な被災者とここではみなし、その他の方を非被災者として、両者で「つながり」や「関係」に関する意識の違いをみたのが下の図です。被災者でいずれの「つながり」や「関係」も「大切に感じるようになった」傾向が顕著ですが、被災していない方でも7割弱が「大切に感じるようになった」と回答しています。震災による私たちの意識への影響は広く共有されていると言えるのではないのでしょうか。

図2 東日本大震災の直接的な被害の有無別にみた、つながりや関係を「以前よりも大切に感じるようになった」という回答の分布



東京大学大学院情報学環において、地震をはじめとする災害情報について研究をなさっている田中淳教授に、これらの結果について、ご意見をうかがってみました。

家族や身近な人との間柄を再評価する動きは、他でも明確に認められています。この傾向がどれくらい安定し、社会をどのように変えていくのか、今後に期待しています。

4 成果の公表

皆様からいただいた貴重なデータから得られた成果を、社会に発信し始めています。

2011年12月には、(公財)家計経済研究所主催の「第10回パネルカンファレンス」にて本プロジェクトの報告を行いました。また、2012年4月発行の日本家族社会学会機関誌『家族社会学研究』24-1号に、分析成果を報告する論文2本を掲載しました。定期的に開催しているNFRJ-08パネル研究会は、2月に分析成果の報告会を行いました(下の写真はその折のものです)。

きたる9月には、日本家族社会学会大会(於:お茶の水女子大)において、本プロジェクトのテーマセッションを開催します。

その他の活動については、NFRJのホームページ(<http://nfrj.org/>)の「フォローアップ調査」ならびに「NFRJ-08Panel」で紹介しています。

なお、ホームページのアドレスを移転しております。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。



★ 転居なさった時は、お手数ですが、下記までお知らせください。

一般社団法人 中央調査社

〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-12

0120-48-5351 (フリーダイヤル)

<http://www.crs.or.jp>



本調査でお送りする郵便物にはこのロゴがついています

〈実行委員会メンバー〉

西野理子 (東洋大学) 〈委員長〉

永井暁子 (日本女子大学) 〈事務局長〉

田中慶子 (家計経済研究所)

田中重人 (東北大学)

筒井淳也 (立命館大学)

水落正明 (三重大学)

三輪 哲 (東北大学)

保田時男 (関西大学)